

## 年頭所感

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、依然として解決を見せない欧州債務問題、またそれに端を発した世界経済の鈍化に対する懸念などから、金融・商品市場においては市場参加者の不安が一層高まった年でした。マーケットでは 4 月以降リスクオフの傾向が続き、当社市場においても取引が手控えられたことから、一昨年回復を見せた取引高が再び減少に転じ、当社及び当業界にとって厳しい一年となりました。一方で、総合取引所の設立に係る枠組み整備のための法改正が行われるとともに、産業構造審議会において商品先物市場の活性化に向けた検討が幅広く行われるなど、同市場の重要性が改めて認識された一年でもありました。

当社にあっては、昨年 5 月、東京穀物商品取引所からの申し入れを受け、農産物市場及び砂糖市場の建玉等の処理の移管について引受けを行うことを決定しました。来る 2 月 12 日、農産物・砂糖市場を新規開設するとともに、「東京工業品取引所」から「東京商品取引所」へと商号を変更する予定です。農産物も取り扱う、商品版の総合取引所へと形態を変えることは、我々にとって大きな転換点になると考えております。また同時に、農産物・砂糖市場の我が国経済の発展にとっての重要性に鑑みれば、その活力を取り戻すことは急務であり、強い使命感を感じています。本年は役職員一丸となって既存市場及び農産物・砂糖市場の振興に取り組んでまいり所存です。

さらに、当社は、昨年 12 月に日本商品委託者保護基金及び関西商品取引所から日本商品清算機構(JCCH)の株式を追加取得し、同社を完全子会社化しました。今後は当社と JCCH が一体となって業務運営を行えるというメリットを活かし、クリアリング機能の整備・強化に努め、より一層の市場の信頼性の向上を目指します。

本年は、具体的には次の諸施策に取り組んでまいります。

第一に、新たな市場仲介者の獲得に向けた取組みを引き続き進めていきます。特に、農産物・砂糖市場については、これらの需要家など当業者の獲得に向けた働きかけに注力してまいります。また、海外投資家及びプロ投資家の獲得のため、グローバルに展開する国内外の大手金融機関に対する営業を強化し、受託取引参加者及び他社清算参加者として当社市場への参入を促進します。さらに、個人投資家の獲得のため、ネット系証券会社や FX 会社に対する営業を強化し、当社市場への参入を促進します。

第二に、個人投資家や当業者等の市場参加者向けに、受託取引参加者との共催セミナーや Web セミナー等の啓発活動等を通じて、既存取引参加者との協力を行います。また、既存取引参加者との情報交換を密に行い、そのニーズの取込みも積極的に行いたいと考えています。

第三に、魅力ある投資商品の開発を行います。農産物・砂糖市場に関しては、まずは安定した市場運営を最優先に考えておりますが、既存商品の商品設計の見直しも含め、市場参加者のニーズ等を十分に踏まえ、引続き取り組んでまいります。

本年は、前述した当社の事業拡大や日本取引所グループの発足など年の初めからマーケットを取り巻く環境が大きく変わり、当社にとって大きな舵取りの決断を迫られる年になると考えております。

皆様方の益々のご発展とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本年も一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。